



## 2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月12日

上場会社名 北海道中央バス株式会社  
 コード番号 9085 URL <https://www.chuo-bus.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員  
 四半期報告書提出予定日 2021年2月15日  
 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 札  
 (氏名) 二階堂 恭仁  
 (氏名) 大森 正昭  
 TEL 0134-24-1111

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	21,232	25.9	3,324		2,656		1,618	
2020年3月期第3四半期	28,665	0.0	746	272.5	902	149.8	556	252.8

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	618.45	
2020年3月期第3四半期	212.60	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	40,112	27,956	68.8
2020年3月期	41,365	31,061	74.1

(参考)自己資本 2021年3月期第3四半期 27,590百万円 2020年3月期 30,667百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期				50.00	50.00
2021年3月期					
2021年3月期(予想)					

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注)2021年3月期の配当予想については、現時点では未定としております。

### 3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	29,100	23.6	4,300		3,500		1,900		725.94

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期3Q	3,146,000 株	2020年3月期	3,146,000 株
------------	-------------	----------	-------------

期末自己株式数

2021年3月期3Q	528,693 株	2020年3月期	528,549 株
------------	-----------	----------	-----------

期中平均株式数(四半期累計)

2021年3月期3Q	2,617,371 株	2020年3月期3Q	2,617,565 株
------------	-------------	------------	-------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(追加情報) .....	8
(セグメント情報) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に収束を見通せない中、社会経済活動の停滞が続き、企業収益の急速な減少や雇用環境の悪化など、依然として極めて厳しい状況で推移しました。道内の経済においても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、観光需要や個人消費の減少など、厳しい状況が続いております。

このような経営環境の中、当社グループは、地域社会に密着した事業を積極的に展開するとともに、経営効率を高め収支改善や経営体質の強化など、企業価値の向上に取り組んでまいりましたが、旅客自動車運送事業、観光事業において新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けました。

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は21,232百万円（対前年同期比25.9%減）、営業損失は3,324百万円（前年同期は746百万円の営業利益）、経常損失は2,656百万円（前年同期は902百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は1,618百万円（前年同期は556百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

事業別の経営成績は、次のとおりであります。

#### ①旅客自動車運送事業

乗合運送事業は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、大幅な減収を余儀なくされました。その中でも、バス車内及び施設の感染防止対策を徹底するとともに、インバウンド需要の消失や人の移動の自粛により大きく減少したバス需要に合わせて、細やかに運行便数の減便を行い、5月の緊急事態宣言解除後から11月に感染が再拡大するまでは、外出自粛の段階的緩和に合わせて運休便の運行を一部再開するなどの対応を図りながら、バス路線の運行を維持し、地域の公共交通機関としての役割を果たしてきました。

貸切運送事業においても、旅行需要が回復せず大幅な減収となりました。

この結果、売上高は10,017百万円（対前年同期比38.4%減）、設備投資計画を全面的に見直すなど費用の削減を図りましたが、3,392百万円の営業損失（前年同期は449百万円の営業利益）となりました。

#### ②建設業

建設業は、受注競争の激化により受注高は減少しましたが、完成工事高は増加しました。

この結果、売上高は8,050百万円（対前年同期比2.3%増）、営業利益は290百万円（同37.7%増）となりました。

#### ③清掃業・警備業

清掃業・警備業は、受注の減少により減収となりました。

この結果、売上高は2,198百万円（対前年同期比2.8%減）、営業利益は129百万円（同8.8%減）となりました。

#### ④不動産事業

不動産事業は、前年同期並みの売上高となりました。

この結果、売上高は592百万円（対前年同期比0.2%減）、修繕費の減少により営業利益は275百万円（同11.8%増）となりました。

#### ⑤観光事業

観光事業においては、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、インバウンド需要の消失や人の移動の自粛により利用客が大きく減少し、施設の休業や営業時間の短縮を余儀なくされました。外出自粛が緩和された後も、観光需要が回復しない中、11月に入り再び感染が拡大したことに伴う外出自粛要請などにより観光需要がさらに減少し、大幅な減収となりました。

ニセコアンヌプリ国際スキー場は、2019-2020シーズンの冬期営業を例年よりも早く終了し、12月から開始した2020-2021シーズンの冬期営業では、スキー客が大きく減少しました。

小樽天狗山スキー場は、ロープウェイ利用客が大きく減少し、運休や営業期間及び営業時間の短縮を行いました。

ニセコ温泉郷「いこいの湯宿いろは」は、4月下旬から6月末まで休館しました。7月から営業を再開しましたが、11月に入り外出自粛要請やGo Toトラベル事業の一時停止などの影響により、予約のキャンセルが相次ぎました。

道央自動車道に直結した観光施設の砂川ハイウェイオアシス館は、4月下旬から臨時休業を実施しました。5月上旬から営業時間を短縮して営業を再開し、イベントを開催するなど集客に努めました。

この結果、売上高は494百万円（対前年同期比57.1%減）、541百万円の営業損失（前年同期は307百万円の営業損失）となりました。

なお、当セグメントは、スキー場の営業が冬期間中心であるため、第4四半期の売上高が他の四半期に比べて高くなる季節的変動があります。

## ⑥その他の事業

飲食業は、外食需要が減少したことにより、営業時間の短縮を余儀なくされたことから、テイクアウトメニューの販売を新たに開始するなど集客に努めましたが、減収となりました。自動車教習所は、政府や自治体の要請を受け臨時休業を実施しましたが、入校生の増加により、増収となりました。旅行業は、旅行需要が消失し臨時休業を実施しました。6月の営業再開後に、感染防止対策を徹底した旅行商品を企画し販売しましたが、旅行需要が回復せず、大幅な減収となりました。

この結果、売上高は1,764百万円（対前年同期比36.0%減）、90百万円の営業損失（前年同期は14百万円の営業利益）となりました。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,984,519	7,980,608
受取手形及び売掛金	3,749,044	4,655,965
有価証券	3,200,000	2,250,000
商品	34,972	39,798
原材料及び貯蔵品	158,675	167,954
未成工事支出金	21,685	306,490
その他	465,034	851,730
貸倒引当金	△10,280	△3,713
流動資産合計	14,603,652	16,248,834
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	20,423,484	20,518,704
減価償却累計額	△15,635,439	△15,846,139
建物及び構築物(純額)	4,788,044	4,672,564
車両運搬具	28,676,742	27,801,374
減価償却累計額	△22,403,374	△22,713,951
車両運搬具(純額)	6,273,367	5,087,422
土地	10,043,397	10,044,221
その他	4,737,864	4,770,444
減価償却累計額	△4,029,763	△4,126,516
その他(純額)	708,100	643,928
有形固定資産合計	21,812,910	20,448,136
無形固定資産	118,441	103,399
投資その他の資産		
投資有価証券	4,289,089	2,791,696
その他	564,672	543,386
貸倒引当金	△23,478	△23,233
投資その他の資産合計	4,830,282	3,311,850
固定資産合計	26,761,635	23,863,385
資産合計	41,365,287	40,112,220

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,142,428	3,327,530
未払法人税等	247,046	194,986
賞与引当金	234,562	113,934
その他の引当金	3,974	4,162
その他	3,622,136	4,335,889
流動負債合計	6,250,148	7,976,503
固定負債		
退職給付に係る負債	2,918,953	2,862,247
役員退職慰労引当金	340,604	337,434
その他	794,313	979,723
固定負債合計	4,053,871	4,179,406
負債合計	10,304,019	12,155,909
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,100,000	2,100,000
資本剰余金	759,341	759,341
利益剰余金	28,272,309	26,508,639
自己株式	△1,216,445	△1,216,994
株主資本合計	29,915,205	28,150,987
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,129,126	△27,588
退職給付に係る調整累計額	△376,726	△532,992
その他の包括利益累計額合計	752,399	△560,581
非支配株主持分	393,662	365,905
純資産合計	31,061,267	27,956,311
負債純資産合計	41,365,287	40,112,220

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	28,665,094	21,232,274
売上原価	25,562,577	22,384,401
売上総利益又は売上総損失(△)	3,102,517	△1,152,126
販売費及び一般管理費	2,356,143	2,172,252
営業利益又は営業損失(△)	746,374	△3,324,379
営業外収益		
受取配当金	101,798	77,103
助成金収入	11,128	546,867
持分法による投資利益	21,171	21,117
その他	23,635	25,360
営業外収益合計	157,733	670,449
営業外費用		
支払利息	381	184
支払手数料	871	2,120
その他	60	80
営業外費用合計	1,313	2,385
経常利益又は経常損失(△)	902,794	△2,656,314
特別利益		
固定資産売却益	57,236	1,455
投資有価証券売却益	5,031	1,790,730
その他	5,620	293
特別利益合計	67,888	1,792,479
特別損失		
固定資産除売却損	46,647	16,341
その他	3,363	104
特別損失合計	50,010	16,445
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	920,672	△880,281
法人税、住民税及び事業税	380,054	220,863
法人税等調整額	3,839	544,435
法人税等合計	383,893	765,299
四半期純利益又は四半期純損失(△)	536,778	△1,645,580
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△19,719	△26,857
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	556,498	△1,618,722

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	536,778	△1,645,580
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	283,393	△1,157,875
退職給付に係る調整額	232,668	△156,265
持分法適用会社に対する持分相当額	△296	1,361
その他の包括利益合計	515,766	△1,312,779
四半期包括利益	1,052,545	△2,958,360
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,071,855	△2,931,703
非支配株主に係る四半期包括利益	△19,310	△26,657

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

連結子会社の税金費用については、主として当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

会計上の見積りに対する新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について、現時点で入手可能な情報に基づき、前連結会計年度の有価証券報告書「(追加情報)(会計上の見積りに対する新型コロナウイルス感染症の影響)」の記載内容から仮定の一部を変更しております。変更後の仮定は以下の通りであります。

固定資産の減損の判定及び繰延税金資産の回収可能性の判断等の会計上の見積りについては、主たる事業である旅客自動車運送事業のバス利用状況が、2021年3月まで徐々に回復することを期待しつつも、コロナ禍前の利用状況まで回復しないと仮定し、会計処理に反映しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間において、繰延税金資産の一部を取り崩しており、法人税等調整額が578,433千円増加しております。

(セグメント情報)

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント							調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	旅客自動車 運送事業	建設業	清掃業・ 警備業	不動産事業	観光事業	その他の 事業	合計		
売上高									
外部顧客に対する 売上高	9,966,017	7,873,188	1,416,760	340,599	490,137	1,145,570	21,232,274	—	21,232,274
セグメント間の内部 売上高又は振替高	51,205	176,907	782,165	252,204	4,267	618,517	1,885,268	△1,885,268	—
計	10,017,223	8,050,095	2,198,926	592,803	494,405	1,764,088	23,117,542	△1,885,268	21,232,274
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△3,392,679	290,669	129,437	275,317	△541,976	△90,280	△3,329,513	5,134	△3,324,379

(注) 1 セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。